

第1章 令和5年（2023年）の主な取り組み

1 くまもと農林水産業の1年

1
〜
3
月

- 県育成カンキツ新品種「熊本EC12（商標：ゆうばれ）」の初売り（1月13日）
- 国営土地改良事業「川辺川地区」の完工式を開催（1月21日）
- 田んぼダムの取組みの普及・拡大に向けた「田んぼダムマイスター研修会」を県内4箇所で開催（2月10日～17日）
- 外部有識者による田んぼダム効果等検証委員会から提言書を知事へ提出（3月15日）
- 熊本県みどりの食料システム基本計画を策定
- 「くまもと県南フードバレー構想」策定10周年

4
〜
6
月

- 「みどりの食料システム法」に基づき、環境負荷低減に取り組む農林漁業者の計画を認定する制度（みどり認定）を開始
- 首都圏における県産あさりの出荷再開（4月21日）
- シャットネラ、コクロディニウム、カレニアの3種類の赤潮による被害発生（6月～9月）
- 半導体関連企業の進出に伴う農地減少対策として「農林水産部PT営農継続支援チーム」を設置（6月27日）

7
〜
9
月

- くまもと黒毛和牛首都圏出荷一周年記念交流会開催及び東京食肉市場でのくまもと黒毛和牛枝肉研究会を初開催（8月2日～3日）
- 民間建築物における木材利用を促進するため、県内初となる建築物木材利用促進協定3件を締結（8月10日）
- 横島干拓入植50周年記念式典を開催（8月10日）
- 国の豚熱ワクチン接種推奨地域の指定を受け、豚熱ワクチンの接種命令を発出（9月19日）
- 赤潮被害対策に関する緊急要望を実施（9月21日）
- 令和2年7月豪雨で被災した芦北地域の山腹崩壊等の国代行による復旧工事が完了（9月30日）

10
〜
12
月

- 全国開拓農業協同組合連合会人吉食肉センター及びゼンカイミート(株)本社工場しゅん工式（9月7日）及び商業稼働再開（10月2日～）
- 阿蘇地域世界農業遺産認定10周年記念シンポジウムを開催（10月12日～13日）
- 熊本地震によって甚大な被害が発生した大切畑ダムの定礎式を開催（10月19日）
- 熊本県畜産農業協同組合と熊本県経済農業協同組合連合会が初めて合同の第1回熊本県枝肉共進会を開催（10月30日～11月3日）

2 トピックス

(1) 首都圏における県産あさりの販売再開（4月21日）

- 令和4年（2022年）1月のあさり産地偽装に関する報道及び2月の農林水産省による調査結果の公表により、熊本県産と偽装されたあさがりに全国に流通している問題が判明しました。
- 県では、県産あさりの産地偽装を抑止するため、漁場から認定工場を経て販売協力店で販売されるまでの流通過程を明らかにするトレーサビリティ制度、販売協力店認証制度、漁場・認定工場・販売協力店での監視業務、DNA分析を組み合わせた「熊本モデル」を構築・運用し、純粋な県産あさりの産地偽装の抑止と適正な流通・販売に取り組んでいます。
- 「熊本モデル」での県産あさりの出荷再開から1年が経過した令和5年（2023年）4月に首都圏での販売が再開されました。これに合わせて、東京都内の販売協力店で知事がトップセールを行い、くまモンや熊本県漁業協同組合連合会会長とともに、お客様へ県産あさりのおいしさなどを紹介しました。



知事による水産物売場の視察



知事トップセールスの様子

(2) 3種類の有害赤潮により3年連続となる漁業被害が発生（6月～9月）

- 八代海では、令和5年（2023年）6月から9月にかけて、コクロディニウム、シャットネラ属、カレニアの3種類の有害赤潮が発生しました。
- ブリやカンパチ、マダイなど多くの養殖魚がへい死し、被害額が15億円を超えるなど、令和3年（2021年）から3年連続となる漁業被害が発生しました。
- 被害を受けた養殖業者の早期事業再開に向け、県では中間魚購入や漁場環境改善のための海底耕うんなどの取組みを支援しています。



へい死した養殖魚



赤潮駆除剤の散布

(3) 国の豚熱ワクチン接種推奨地域の指定を受け、豚熱ワクチンの接種命令を発出（9月19日）

- 佐賀県での豚熱発生を受けて、国が令和5年（2023年）9月5日、九州7県を豚熱ワクチン接種推奨地域に指定しました。それを受け、9月19日、豚熱ワクチンの接種命令の公示を行い、9月27日からワクチン接種を開始しました。
- 速やかなワクチン接種を実施するため、打ち手の確保として、知事認定獣医師、登録飼養衛生管理者を活用し、県内養豚農場等で飼養されている豚・いのしし約27.9万頭への初回接種を12月8日までに終了しました。
- 初回接種以降、新たに生まれた子豚等へのワクチン接種を引き続き実施し、飼養衛生管理の強化、野生いのししの捕獲・検査に取り組んでいます。
- 一方、野生いのししに豚熱の感染が確認された場合には、感染の拡大防止を目的に早急に経口ワクチンを散布する必要があるため、10月31日に熊本県野生いのしし豚熱経口ワクチン対策協議会を設立しました。



母豚への豚熱ワクチン接種



子豚への豚熱ワクチン接種

(4) 熊本地震によって甚大な被害が発生した大切畑ダムの定礎式を開催（10月19日）

- 大切畑ダムの災害復旧工事では、ダムの基盤となる、本堤の遮水材の盛立を令和5年（2023年）8月に開始しました。本堤の盛立を開始したことに合わせて、ダムの安泰・繁栄を祈念する大切畑ダム復旧工事定礎式を10月19日に開催しました。定礎式には、蒲島熊本県知事(当時)や宮崎雅夫参議院議員をはじめ、多くの方に参列していただきました。
- また、工事完了までの間、受益地の水田では用水量が不足するため、代かき・植付時期を調整するブロックローテーション会議を行い、上流から流入する水を最大限利用する取組みを行っています。



定礎式（鎮定の儀）状況写真

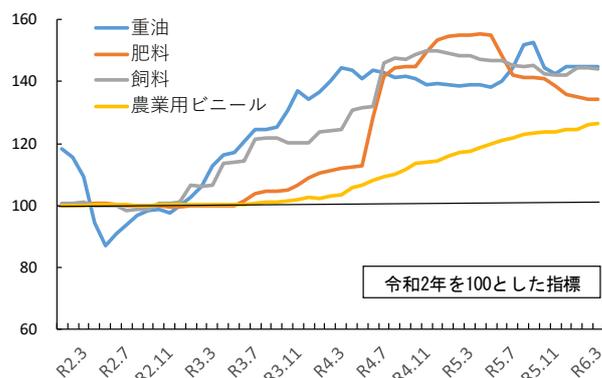


定礎式参列者集合写真

(5) 燃料・資材・飼料等価格高騰に係る対応

- コロナ禍に加え、令和4年（2022年）2月から始まったロシアのウクライナ侵攻を受けて、世界的に原油価格などの物価が高騰しています。
- 本県農業においても、燃料・資材・飼料価格等が高騰したことにより、農業者の生産コストが上昇するなど影響を受けています。農産物は上昇したコストを価格に転嫁することが難しいことから、本県農業への影響は大きなものとなっています。
- 県では、これまで、国に対し支援制度の創設や拡充について要望を実施しています。
- その結果、コスト上昇を緩和するための各種補助事業が創設されたほか、セーフティネット制度の十分な予算確保や燃油価格高騰対策制度では積立金の分割納入が可能となるなど、農林漁業者に寄り添った支援が実現しました。
- また、県独自の肥料価格上昇に対する支援や生産コスト削減につながる資材の導入支援等、令和3年度（2021年度）から令和5年度（2023年度）にかけて総額31億円を超える支援策を切れ目なく実施し、生産コストの削減のための技術導入と経営安定のための対策を一体的に行いました。

【燃料・資材・飼料等価格の推移】



（資料）農林水産省「農業物価統計調査」

(6) 半導体関連企業の進出に伴う本県農業への影響と対応

- 農業振興と企業進出の両立を図るため、県では、令和4年（2022年）12月に庁内関係各課で構成する「半導体拠点推進調整会議」を設置し、農振除外を伴う開発案件を一元的に受け付ける総合相談窓口を設け、部局横断的に土地利用調整を支援しています。
- また、企業立地の規模が拡大するとともに、スピードが加速しており、売買の増加による農地の減少が進んでいます。農地の貸借契約が解除された農家は、新たな農地の情報を収集できる仕組みがないことから、代替農地を見つけることが困難な状況となっています。
- そこで、令和5年（2023年）6月に「農林水産部PT営農継続支援チーム」を設置し、農地と農家のマッチングを図るため、利用可能な農地情報と、データベース化した農家の借りたい土地の条件を市町と共有しています。利用可能な農地については、1,108筆の耕作放棄地等の状況調査を実施し、関係機関への聞き取り等により掘り起こしを行うなど、より多くの代替候補地の情報収集に取り組んでいます。
- 更に、令和6年(2024年)1月に「営農継続県・市町村連絡会議」を設置し、マッチング以外の手法による対応等も検討しています。市町村が把握する農家の現状や要望等について情報共有を行うほか、農林水産部PT営農継続支援チームへ新たな対応等の提言を行っていきます。



第1回半導体拠点推進調整会議



利用可能な農地の状況調査

(7) 熊本県みどりの食料システム基本計画の策定

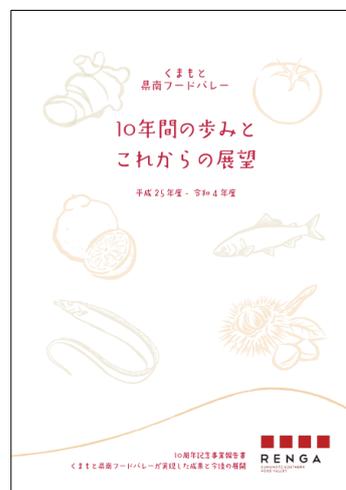
- 農林水産業においても環境への配慮が求められるなか、「環境にやさしい農林水産業」と「稼げる農林水産業」の両立を目指し、令和5年（2023年）3月に県内全市町村と連名で基本計画を策定しました。
- 「くまもとグリーン農業の推進」と「CO₂ゼロエミッション化」を2本の柱として、化学肥料・農薬や温室効果ガスの削減など環境負荷低減の取組みを推進しています。



くまもとグリーン農業マークの一新

(8) 「くまもと県南フードバレー構想」策定10周年

- 平成25年（2013年）3月に策定された「くまもと県南フードバレー構想」は、令和5年（2023年）に策定10周年を迎えました。
- 令和5年度（2023年度）には、本構想に係る取組み成果の取りまとめや検証を全庁的に実施し、『くまもと県南フードバレー 10年間の歩みとこれからの展望』を作成、配布しました。
- また、10周年記念に関連して、フードバレーフェスタ、デジタルスタンプラリー等のイベントを実施しました。



10周年記念パンフレット

(9) 「民間建築物における木材利用を促進するため、県内初となる建築物木材利用促進協定3件を締結（8月10日）」

- 令和3年(2021年)10月に施行された「都市（まち）の木造化推進法」により新たに創設された「建築物木材利用促進協定制度」に基づき、令和5年（2023年）8月に県内初となる協定3件を県内の団体や企業と締結しました。
- 同協定に基づき、木材利用に関する構想の実現を目指す事業者等と連携し、その取組みを支援することで、県産木材の需要拡大を促進して参ります。



協定のイメージ（出典：林野庁作成資料）



協定締結式の様子

(10) くまもと黒毛和牛首都圏出荷一周年記念交流会開催及び東京食肉市場でのくまもと黒毛和牛枝肉研究会を初開催（8月2日～3日）

- 県統一ブランド「くまもと黒毛和牛」は認知度向上及び販路拡大を目的に令和4年（2022年）から首都圏への生体出荷を行っています。
- 令和5年（2023年）8月2日、首都圏出荷一周年を記念し、くまもと黒毛和牛のPRの一環として、首都圏市場関係者と産地との意見交換の場を設けた交流会を開催しました。
- また、8月3日には、購買者への熊本県産牛肉のPR並びに生産者の生産意欲の向上と技術研鑽のため、東京食肉市場において「くまもと黒毛和牛」枝肉研究会を初開催しました。当日は、県内各地から優れた枝肉が45頭出品され序列を競い合い、優良賞3点、優秀賞2点、最優秀賞1点が選出されました。その後行われたセリでは、活発な取引が行われ、特に最優秀賞の枝肉のセリでは、落札後拍手が起こるなど、大いに盛り上がりを見せました。



交流会におけるくまもと黒毛和牛のPR



くまもと黒毛和牛料理

(11) 令和2年7月豪雨で被災した芦北地域の山腹崩壊等の国代行による復旧工事が完了（9月30日）

- 令和2年7月豪雨による災害が「大規模災害からの復興に関する法律」に規定する「非常災害」に指定されたことを受け、芦北地域における緊急治山事業及び治山施設災害復旧事業について、特定民有林直轄治山施設災害復旧等事業として、国代行（九州森林管理局）により復旧工事が進められました。
- 令和5年（2023年）9月に、36箇所（約31億円）全ての工事が完了しました。



芦北町岩本地区



津奈木町柳迫地区

(12) 阿蘇地域世界農業遺産認定10周年記念シンポジウムを開催

- 「阿蘇の草原の維持と持続的農業」が世界農業遺産に認定され、令和5年度（2023年度）で10周年を迎えたことを記念し、10月12日～13日に「阿蘇地域世界農業遺産認定10周年記念シンポジウム」を開催しました。
- 関係者や一般市民等約200名の参加があり、地球環境戦略研究機関理事長 武内和彦氏の記念講演、パネルディスカッション、エクスカージョンを実施しました。
- 認定からこれまでの取組みを振り返りながら、次世代に継承するために必要な取組み等について、参加者と共に検討する機会となりました。



パネルディスカッションの様子



エクスカージョンの様子

第2章 本県農林水産業の姿

1 本県の概要

- 熊本県は、世界最大級のカルデラを有する阿蘇や、美しい島々からなる天草に代表される素晴らしい自然にあふれています。また、阿蘇山、九州山地に源を発する菊池川、球磨川などの一級河川や豊富な地下水など、水資源にも恵まれています。
- 三方を山に囲まれているため、天草地方を除いて、全体的に内陸性気候であり、平均気温（平年値）は熊本市で17°C前後、阿蘇地方で13°C前後となっています。
- 年間降水量（平年値）は、平地で約2,000mm、山地で約3,000mmとなっています。
- このような豊かな自然の恵みを背景に、多様な農林水産物が生産されています。

【主要指標】

面積	7,409km ²	令和5年全国都道府県市区町村別面積調
総人口	170万9千人 (男 81万1千人 女 89万8千人)	令和5年10月1日人口推計
総世帯数	71万9千世帯	令和2年国勢調査人口等基本集計
県内総生産	6兆4,173億円 (うち農林水産業 1,712億円)	令和3年度県民経済計算報告書

【市町村】

14市23町8村（45市町村）



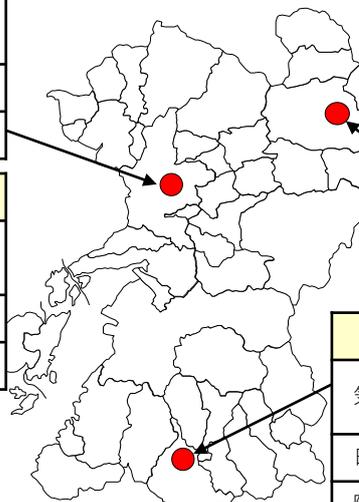
【気象（R5）】

熊 本	
気温	18.1°C 最高36.9°C 最低-5.8°C
日照時間	2100.6時間
降水量	1801.5mm

牛 深	
気温	19.1°C 最高37.1°C 最低-3.4°C
日照時間	2101.5時間
降水量	1746.0mm

阿蘇乙姫	
気温	13.9°C 最高32.9°C 最低-8.6°C
日照時間	1824.1時間
降水量	2675.0mm

人 吉	
気温	16.5°C 最高35.3°C 最低-4.6°C
日照時間	1829.0時間
降水量	2130.0mm



(資料) 気象庁

2 概要

(1) 農業

- 農業生産の主要な担い手である認定農業者数は全国第3位、基幹的農業従事者数は全国第5位です。
- 令和4年（2022年）の農業産出額は全国第5位、生産農業所得は全国第4位です。
- 全国第1位が6品目（トマト、すいか、不知火類（デコポン）、葉たばこ、いぐさ、宿根カスミソウ）があり、その他にも、カリフラワー、なす、メロン、しょうが、なつみかん、くり、トルコギキョウなど全国的にも上位を占める品目が数多くあります。

【全国に占めるくまもと農業の地位】

区 分	単 位	全 国	九 州	熊 本 県	熊本県の全国に占める		
					順位	割合 (%)	
農 業 経 営 体 数 (R5年)	千経営体	929.4	143.4	30.9	8	3.3	
認 定 農 業 者 数 (R5.3月末)	千人	219.9	43.1	9.9	3	4.5	
基 幹 的 農 業 従 事 者 数 (R5年)	千人	1,163.5	193.0	43.5	5	3.7	
耕 地 面 積 (R5年)	千ha	4,297.0	506.3	104.3	14	2.4	
田 面 積 (R5年)	千ha	2,335.0	295.8	64.0	13	2.7	
畑 面 積 (R5年)	千ha	1,962.0	210.5	40.3	8	2.1	
樹 園 地 (R5年)	千ha	253.5	49.3	13.0	6	0.5	
牧 草 地 (R5年)	千ha	589.0	12.5	5.2	6	0.9	
農 業 産 出 額 (R4年)	億円	90,015	18,208	3,512	5	3.9	
生 産 農 業 所 得 (R4年)	億円	33,479	6,701	1,446	4	4.3	
主 要 農 産 物 の 収 穫 量	ト マ ト (R4年)	千t	707.9	196.6	130.3	1	18.4
	す い か (R4年)	千t	315.9	67.6	48.0	1	15.2
	不 知 火 類 (デコポン) (R3年)	千t	36.6	...	10.6	1	29.0
	葉 た ば こ (販 売 量) (R4年)	千t	8.8	4.8	1.9	1	21.3
	い ぐ さ (R4年)	千t	5.4	...	5.4	1	対主産県比 100.0
	宿 根 カ ス ミ ソ ウ (R4年)	千本	45,800	...	17,800	1	対主産県比 38.9
	カ リ フ ラ ワ ー (R4年)	千t	22.2	3.8	2.6	2	11.5
	な す (R4年)	千t	294.6	61.6	33.4	2	11.3
	メ ロ ン (R4年)	千t	142.4	29.6	24.4	2	17.1
	し ょ う が (R4年)	千t	46.2	11.7	5.3	2	11.4
	な つ み か ん (R3年)	千t	29.4	...	6.3	2	21.3
	く り (R4年)	千t	16.3	...	2.3	2	14.1
	ト ル コ ギ キ ョ ウ (R4年)	千本	84,500	...	10,000	2	対主産県比 11.8
	い ち ご (R4年)	千t	161.1	52.3	11.7	3	7.3
	ア ス パ ラ ガ ス (R4年)	千t	23.2	8.3	2.3	2	10.0
	う ん し ゅ う み か ん (R4年)	千t	682.2	...	75.0	4	11.0
か ん し ょ (R4年)	千t	725.8	319.3	18.4	6	2.5	
水 稻 (R5年)	千t	7,269.0	741.3	156.8	16	2.2	

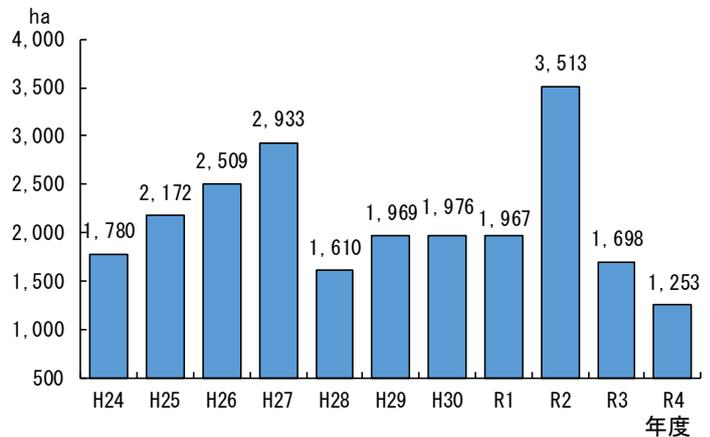
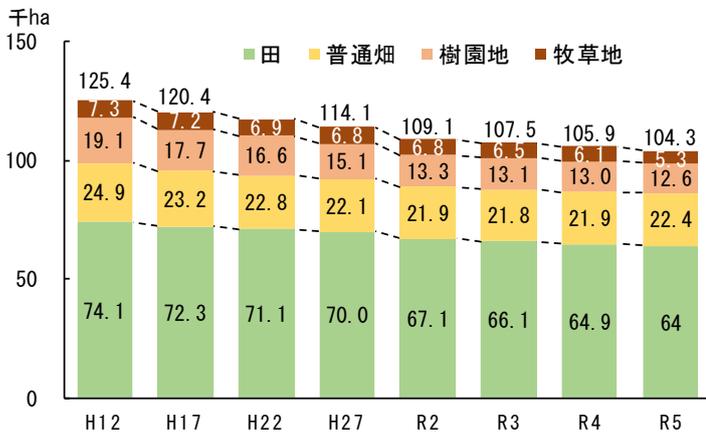
(資料) 農林水産省「2020年農林業センサス」、「作物統計」、「生産農業所得統計」他

※主要農畜作物の収穫量の欄の「・・・」は、主要産地県のみ調査されている作物。順位は主産地県中の順位。

- 耕地面積は、住宅その他の建物施設用地等への転用が進んでいることなどにより、緩やかな減少傾向が続いています。
- 平成24年度（2012年度）から担い手への農地集積に向けて、年間2,100haの農地集積を目標に取り組みを開始しました。
- 地域での話合いの結果、平成24年度（2012年度）から令和4年度（2022年度）の11か年で23,380haの集積が図られました。

【耕地面積の推移】

【農地集積の状況】



(資料) 農林水産省「耕地及び作付面積統計」

(資料) 県農林水産部調べ

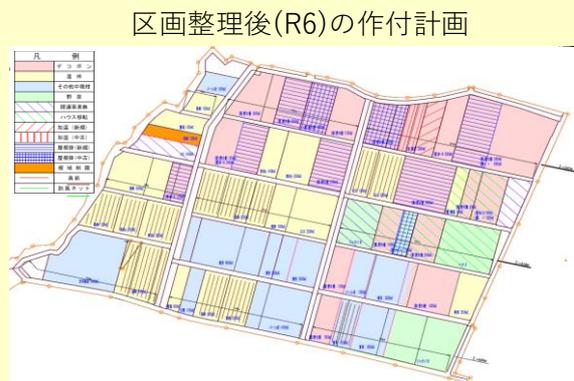
高収益作物導入推進の取組み

基盤整備を契機とした樹園地団地の推進【水田から樹園地へ】

大口西部地区（宇城市）では、地区の約8割が耕作放棄地化した水田を整備し、併せて地域の主要農作物である温州みかんやデコポン等の柑橘類などの導入を進めています。さらに、担い手への農地の集積やハウスの団地化による経営力強化を目指しています。

<工事概要>

工種：区画整理 受益面積：13.8ha 事業期間：平成28年度～令和8年度



作付平面図

事業前の作付面積 (12.5 ha)

- 耕作放棄地 : 10.2 ha
- みかん、デコポン : 1.4 ha
- その他 : 0.9 ha

区画整理後の作付面積 (13.8 ha)

- 耕作放棄地 : 0.0 ha
- みかん、デコポン : 12.9 ha
- その他 : 0.9 ha

- 令和4年度末時点：集積率 72%
- 地域集積協力金は、事業負担金、水路等の維持管理費等に充当する予定。

(2) 畜産

- 令和5年（2023年）の家畜の飼養状況について、乳用牛では飼養戸数467戸、飼養頭数43,800頭、肉用牛では飼養戸数2,090戸、飼養頭数139,100頭となっています。
- また、豚については飼養戸数143戸、飼養頭数338,000頭、採卵鶏については飼養戸数35戸、飼養羽数2,586,000羽、ブロイラーについては飼養戸数63戸、飼養羽数3,969,000羽となっています。

【全国に占めるくまもと畜産の地位】

区分	単位	全国	九州	熊本県	熊本県の全国に占める	
					順位	割合(%)
乳用牛						
戸数	戸	12,600	1,230	467	4	3.71
頭数	頭	1,356,000	102,100	43,800	3	3.23
肉用牛						
戸数	戸	38,600	16,900	2,090	7	5.41
頭数	頭	2,687,000	977,400	139,100	4	5.18
豚						
戸数	戸	3,370	1,060	143	8	4.24
頭数	頭	8,956,000	2,818,000	338,000	9	3.77
採卵鶏						
戸数	戸	1,760	345	35	24	1.99
頭数	千羽	172,265	23,815	2,586	23	1.50
肉用鶏						
戸数	戸	2,100	1,110	63	5	3.00
頭数	千羽	141,463	74,113	3,969	6	2.81

(資料) 農林水産省「畜産統計」(R5.2.1)

第1回 熊本県枝肉共進会の開催

これまで、各連合会が個別に開催していた枝肉共進会について、初めて合同で開催しました。このことにより、団体の垣根を超え肥育技術や飼養技術の高位平準化に向け生産者が切磋琢磨できる体制となりました。

栄えある第一回のグランドチャンピオンは、JAくまの吉田忍さんが受賞されました。



褒章授与式



枝肉観覧の様子

(3) 林業

- 令和4年（2022年）の林業産出額は182億円で全国8位となっており、このうち木材産出額は160億円で全国6位となっています。
- 令和4年（2022年）の素材生産量は957千m³で全国7位となっているほか、乾しいたけ生産量は209トンで全国3位となっています。

【全国に占めるくまもと林業の地位】

項目	単位	全国	九州・沖縄	熊本	全国における順位	九州における順位	調査年月日
森林資源（※1）							
林野率	%	67	62	62	32	4	令和5年3月31日
林野面積	千ha	25,025	2,770	460	18	3	
民有林林野面積	千ha	17,327	2,228	396	18	4	〃
人工林面積	千ha	10,093	1,434	279	9	2	〃
人工林率	%	40	52	61	7	3	〃
林業生産（※2）							
林業産出額	億円	5,100	1,070	182	8	3	令和4年次
うち木材産出額	億円	2,928	767	160	6	3	〃
造林（※3）							
民有林造林面積	ha	19,441	5,125	902	4	1	令和3年度
スギ造林面積	ha	6,817	4,404	742	4	4	〃
ヒノキ造林面積	ha	1,193	213	97	2	1	〃
伐採（※4）							
素材生産量	千m ³	22,082	5,392	957	7	3	令和4年次
スギ素材生産量	千m ³	13,238	4,464	720	6	3	〃
ヒノキ素材生産量	千m ³	2,971	768	215	4	1	〃
特用林産物（※5）							
乾しいたけ生産量	トン	2,034	1,464	209	3	3	令和4年次
生しいたけ生産量	トン	69,532	9,408	591	30	6	〃
たけのこ生産量	トン	21,798	13,285	1,482	4	3	〃
木炭生産量	トン	12,308	1,162	X	X	X	〃
竹材生産量	千束	828	713	138	2	2	〃
林道（※6）							
民有林林道総延長距離	km	89,481	13,923	2,067	15	3	令和4年3月31日
民有林林道密度	m/ha	5.1	6.2	5.2	26	6	〃
高性能機械導入数（※7）	台数	12,601	2,815	526	5	2	令和4年度
木材産業（※4）							
製材工場数	工場	3,804	634	127	7	1	令和4年次
出力数	kw	634,743	127,887	18,516	9	3	〃
1工場平均出力数	〃	167	202	146	-	-	〃
製材品出荷量	千m ³	8,190	2,017	349	7	3	〃
森林組合（※8）							
森林組合数	組合	607	80	15	14	1	令和5年3月31日
組合員数	人	1,465,762	279,987	35,501	18	4	〃
1組合平均組合員数	人	2,415	3,500	2,367			〃
林業経営（※9）							
林業経営体数	戸	33,995	6,058	1,255	7	3	令和2年2月1日

（資料）※1 都道府県別森林率・人工林率（林野庁HP）

※2 農林水産省「令和4年 林業産出額」

※3 林野庁「森林・林業統計要覧2023」

※4 農林水産統計「令和4年木材需給報告書」

※5 特用林産基礎調査（令和4年）ただし、個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため、統計数値を公表していない

※6 民有林森林整備施策のあらまし（令和6年2月）

※7 林野庁林業機械保有状況調査（令和4年度版）

高性能機械導入台数は、フェラーバンチャー、ハーベスタ、プロセッサ、スキッダ、フォワーダ、タワヤーダ、スイングヤーダ、フォーク収納型グラップルバケット、その他高性能林業規格の8種類の合計

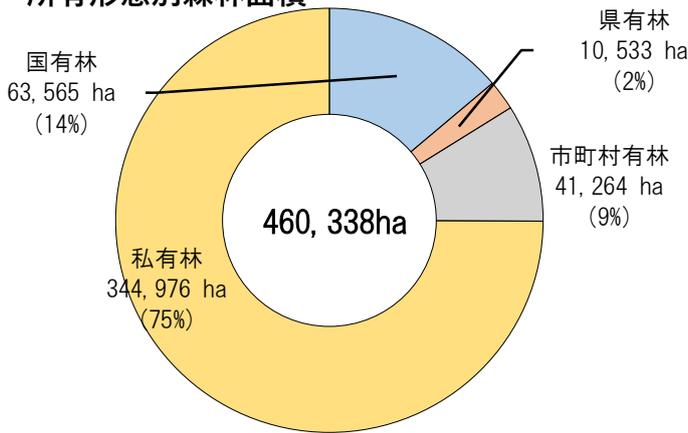
※8 農林水産統計「令和4年度森林組合一斉調査結果」

※9 農林水産省統計部「2020年世界農林業センサス」

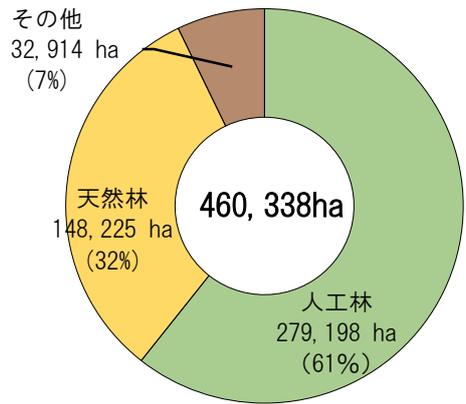
- 令和5年（2023年）4月現在の本県森林面積は、460,338haであり、県土全体の約6割を占めています。
- 所有形態別の構成比は、国有林14%、公有林（県＋市町村）11%、私有林75%となっています。
- 林種区分別の構成比は、人工林61%、天然林32%、その他7%となっています。
- 保安林面積は、国有林58,174ha(34%)、民有林112,707ha(66%)となっています。機能別では、水源かん養保安林及び土砂流出防備保安林が全体の94%を占めています。
- 令和5年（2023年）4月現在で、スギ、ヒノキ人工林のうち、主伐が可能な森林面積（スギ41年生以上、ヒノキ46年生以上）は193,148haとなっており、全体の84%を占めています。

【森林面積】

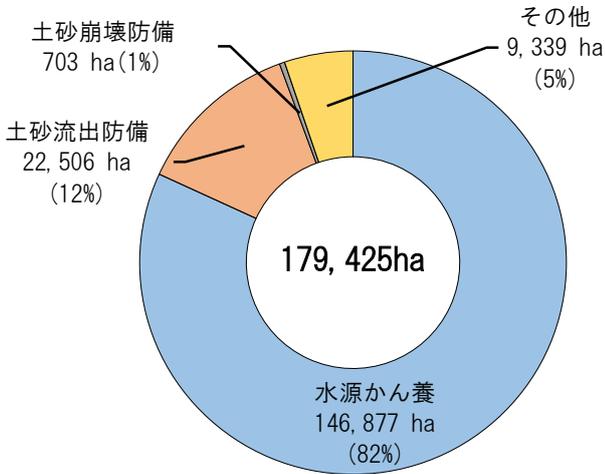
① 所有形態別森林面積



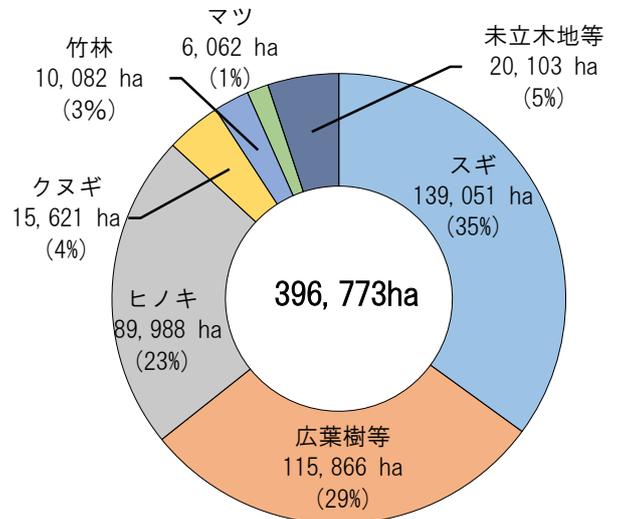
② 人工林・天然林の割合



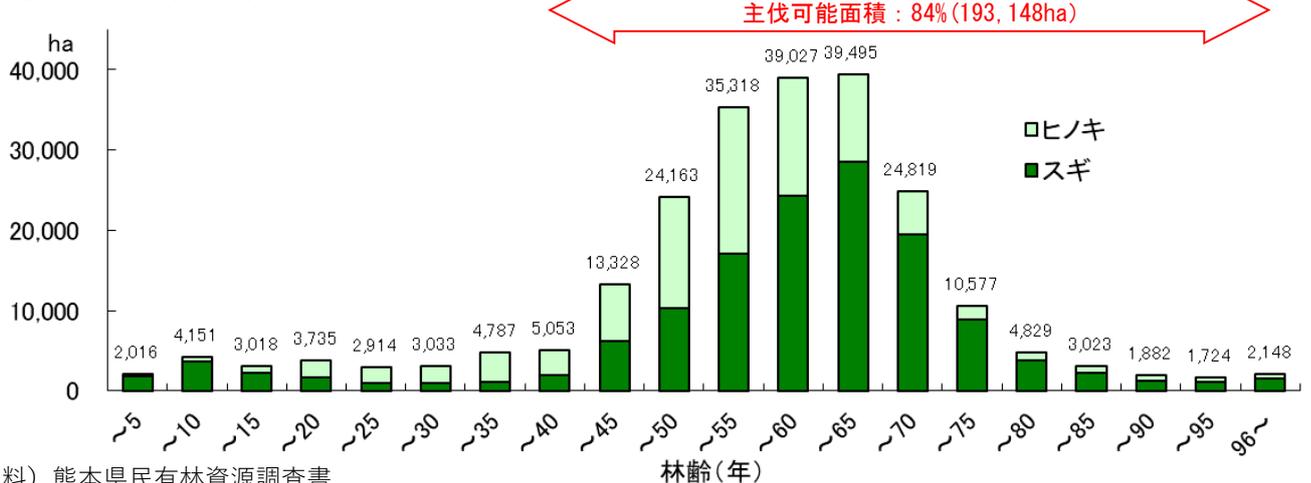
③ 保安林の面積（兼種含む）



④ 民有林の樹種別面積



⑤ 民有林の林齢構成（面積）



(資料) 熊本県民有林資源調査書

(4) 水産業

- 令和4年（2022年）の海面養殖業の産出額は全国第5位です。
- 海面養殖業では、全国第2位のしまあじ、ふぐ類、まだい、くるまえび、全国4位ののり類、まあじ、真珠など、全国的に上位を占める品目が数多くあります。
- また、海面漁業では、たちうお（全国第2位）、このしろ（全国第3位）、くるまえび（全国第5位）など、全国上位の品目もあります。

【全国に占めるくまもと水産業の地位】

項 目		単位	全国	九州	熊本	熊本県の全国に占める		
						順位	割合(%)	
漁業経営体数	(H30)	経営体数	79,067	18,801	2,829	9	3.6	
漁業就業者数	(H30)	人	151,701	36,972	5,392	9	3.6	
漁船隻数	(H30)	隻	132,201	33,663	4,800	11	3.6	
海面漁業産出額	(R4)	億円	9,136	1,369	48	33	0.5	
海面養殖業産出額	(R4)	億円	5,211	2,143	324	5	6.2	
海面漁業漁獲量	(R4)	t	2,950,992	431,104	13,070	31	0.4	
海面養殖業収穫量	(R4)	t	911,839	248,956	52,584	8	5.8	
内水面漁業漁獲量	(R4)	t	22,612	214	38	23	0.2	
内水面養殖業収穫量	(R4)	t	31,503	12,658	354	14	1.1	
養殖 主な 収穫量	しまあじ	(R4)	t	4,488	1,719	801	2	17.6
	ふぐ類	(R4)	t	2,812	2,200	407	2	14.5
	まだい	(R4)	t	68,088	15,920	10,141	2	14.9
	くるまえび	(R4)	t	1,198	730	248	2	20.7
	のり類	(R4)	t	232,490	130,139	36,251	4	15.6
	まあじ	(R4)	t	542	198	28	4	5.2
	真珠	(R4)	kg	12,768	6,477	516	4	4.0
漁業 主な 漁獲量	たちうお	(R4)	t	6,850	2,480	728	2	10.6
	このしろ	(R4)	t	3,034	717	398	3	13.1
	くるまえび	(R4)	t	214	69	15	5	7.0
	がざみ類	(R4)	t	1,433	466	102	5	7.1
	あさり類	(R4)	t	5,668	294	95	8	1.4
	まだい	(R4)	t	15,501	4,971	297	16	1.9

(資料) 農林水産省「漁業センサス」、「農林水産統計年報」

純粋な県産あさを適正に 流通・販売するための「熊本モデル」の紹介

○熊本県は、関係者と連携・役割分担をしながら、県産あさが漁場から販売協力店で販売されるまでの流通過程を明らかにするトレーサビリティ、販売協力店認証制度、漁場・認定工場・販売協力店での監視業務、DNA分析を組み合わせた「熊本モデル」を構築・運用し、純粋な県産あさりの産地偽装の抑止と適正な流通・販売に取り組んでいます。



知事トップセールスの様子

○令和4年（2022年）4月の出荷再開時に県内の93店舗だった販売協力店は、令和4年度末に関西圏までの995店舗、令和5年度末には38都府県の2,037店舗まで増え、多くの方に純粋な県産あさを届けることができるようになりました。今後も、消費者の皆様へ純粋な県産あさを確実に届けられるよう取り組んでいきます。



くまモン部長によるPR

くまもとの豊かな漁場

○熊本県は、有明海、八代海、天草灘の三海域に豊かな漁場を有し、それぞれに特色ある漁業が営まれています。

◆有明海

潮の干満差が大きく、日本最大の干潟を有しています。この海域では、アサリ、ハマグリ等の採貝漁業、ノリ養殖業、クルマエビ、カレイ類、スズキ等を漁獲する流し網、刺網漁業などの漁船漁業が営まれています。



有明海・御興来海岸

◆八代海（不知火海）

湾北部は干潟が広がり内湾性の特徴が強く、湾中部以南は、徐々に外洋性の特徴を有しています。この海域では、湾北部のアサリ等の採貝漁業、湾中部以南は吾智網、船曳網、うたせ網漁業等の漁船漁業により、マダイ、タチウオ、カタクチイワシ等が漁獲されています。また、マダイ、ブリ類、クルマエビ、マガキ、真珠、藻類等の養殖業が盛んです。



八代海で操業する打瀬船

◆天草灘

対馬暖流の影響により暖海性を帯び、多くの曾根や瀬が点在し、瀬付きの底魚や回遊魚等の好漁場となっています。この海域では、沖合のイワシ、アジ等の浮魚やエソ、イトヨリ等の底魚、沿岸のマダイ、ヒラメ等をまき網、刺網、小型機船底曳網等で漁獲しています。沿岸部にはアワビ、ウニ、イセエビ等が生息し、裸潜漁業も営まれています。また、魚類、真珠等の養殖業も盛んです。



天草西海・妙見浦

3 生産

(1) 農業

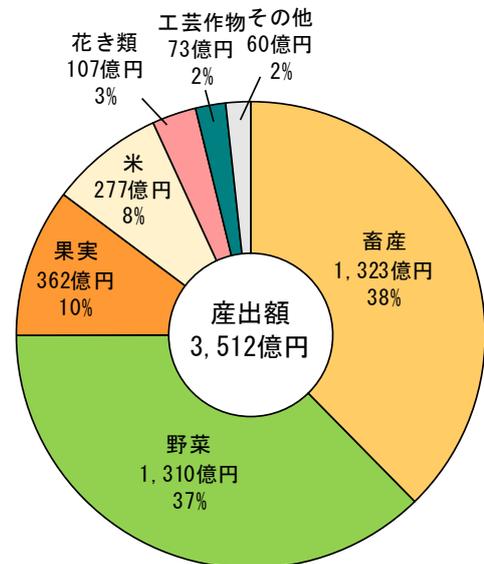
- 令和4年（2022年）の農業産出額は、米や乳用牛等が減少した一方で、野菜や花き、豚等が増加したため、前年比35億円増（1.0%増）の3,512億円となっています。
- 主な内訳は、畜産1,323億円（構成比38%）野菜1,310億円（37%）、果実362億円（10%）、米277億円（8%）、花き107億円（3%）、工芸作物73億円（2%）、その他60億円（2%）等となっています。
- 令和4年（2022年）の生産農業所得は1,446億円で、前年より39億円（-2.6%）減少し、全国4位（前年同）、九州2位（前年同）となっています。

【農業産出額の全国順位推移】

順位	R2		R3		R4	
	単位	億円	単位	億円	単位	億円
1	北海道	12,667	北海道	13,108	北海道	12,919
2	鹿児島	4,772	鹿児島	4,997	鹿児島	5,114
3	茨城	4,411	茨城	4,263	茨城	4,409
4	千葉	3,852	宮崎	3,478	千葉	3,676
5	熊本	3,407	熊本	3,477	熊本	3,512
6	宮崎	3,348	千葉	3,471	宮崎	3,505
7	青森	3,262	青森	3,277	青森	3,168
8	愛知	2,893	愛知	2,922	愛知	3,114
9	栃木	2,849	栃木	2,693	栃木	2,718
10	岩手	2,741	岩手	2,651	長野	2,708
合計	全国	89,370	全国	88,384	全国	90,015

（資料）農林水産省「生産農業所得統計」

【農業産出額に占める品目別割合（R4）】



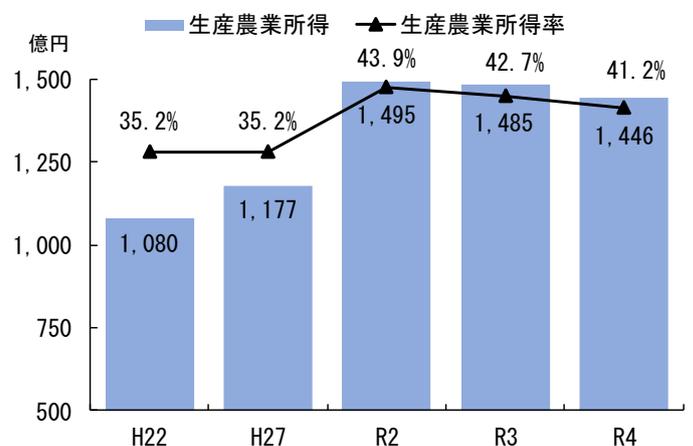
（資料）農林水産省「生産農業所得統計」
（注）野菜にはいも類を含む。

【生産農業所得の全国順位推移】

順位	R2		R3		R4	
	単位	億円	単位	億円	単位	億円
1	北海道	4,985	北海道	4,919	北海道	4,742
2	茨城	1,603	鹿児島	1,712	茨城	1,517
3	熊本	1,495	茨城	1,566	鹿児島	1,493
4	鹿児島	1,415	熊本	1,485	熊本	1,446
5	千葉	1,292	宮崎	1,317	千葉	1,220
6	青森	1,211	青森	1,294	宮崎	1,194
7	宮崎	1,112	千葉	1,257	愛知	1,173
8	愛知	1,112	愛知	1,201	青森	1,148
9	栃木	1,108	栃木	1,128	栃木	1,059
10	長野	1,064	長野	1,009	長野	998
合計	全国	33,434	全国	33,479	全国	31,051

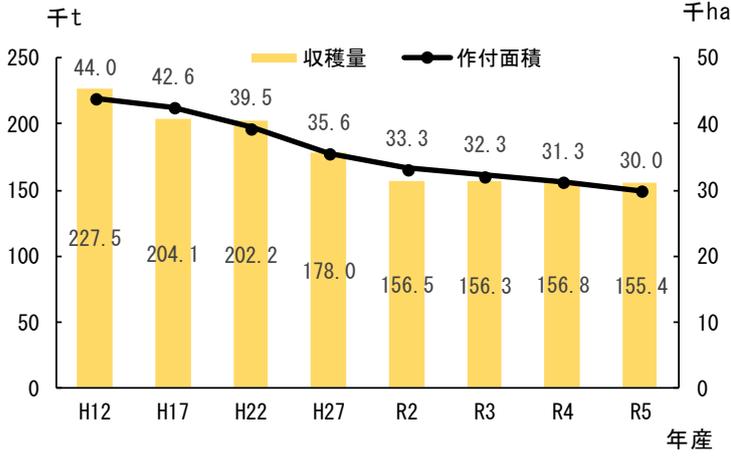
（資料）農林水産省「生産農業所得統計」

【生産農業所得の推移】



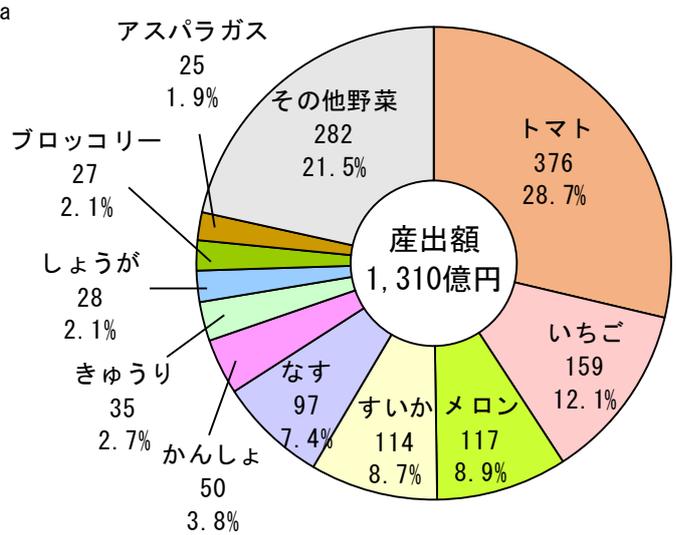
（資料）農林水産省「生産農業所得統計」

【主食用米の生産状況（R5）】



(資料) 農林水産省「作物統計」

【野菜の生産状況（R4）】

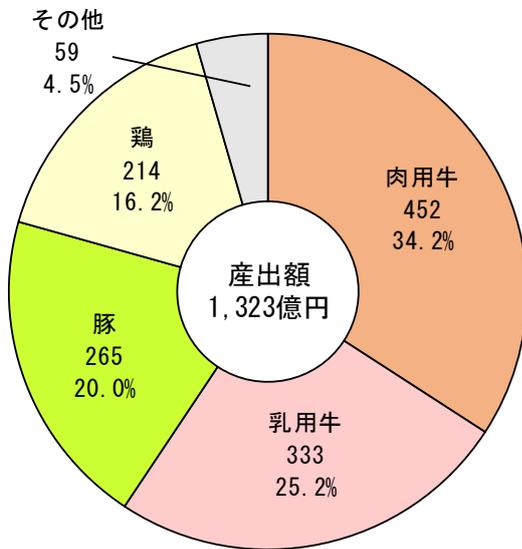


(資料) 農林水産省「生産農業所得統計」

(注) 産出額は野菜といも類の計。

数値は品目ごとの産出額 (単位：億円)

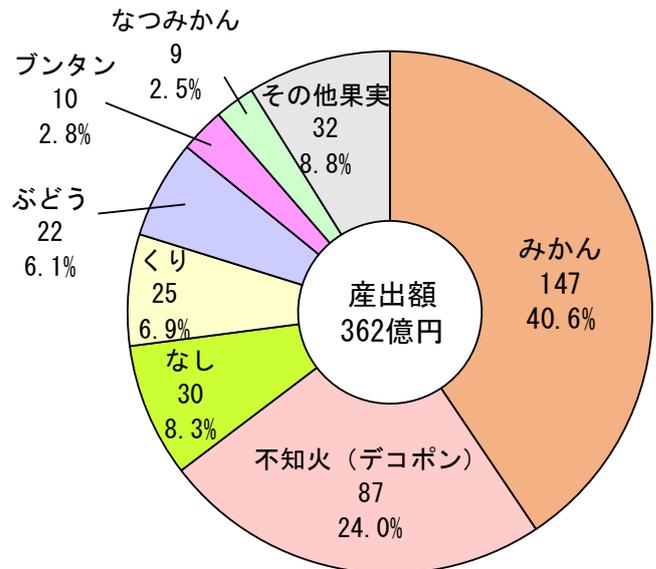
【畜産の生産状況（R4）】



(資料) 農林水産省「生産農業所得統計」

(注) 数値は畜種ごとの産出額 (単位：億円)

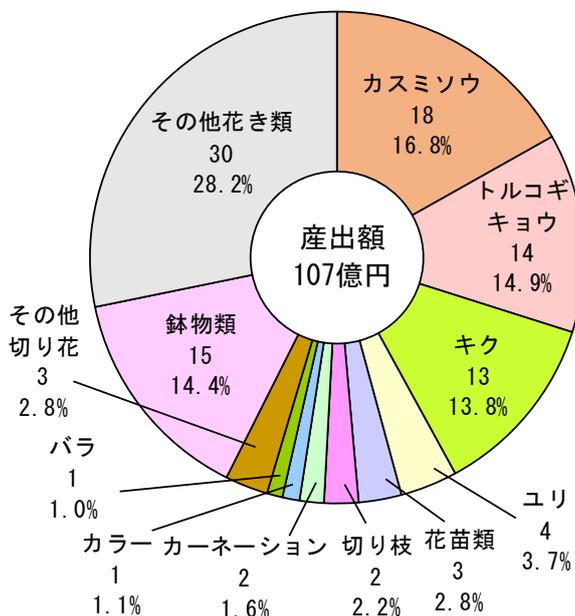
【果実の生産状況（R4）】



(資料) 農林水産省「生産農業所得統計」

(注) 数値は品目ごとの産出額 (単位：億円)

【花きの生産状況（R4）】



(資料) 産出額合計：農林水産省「生産農業所得統計」

品目別産出額：県農林水産部「花き生産実績」

(注) 数値は品目ごとの産出額 (単位：億円)

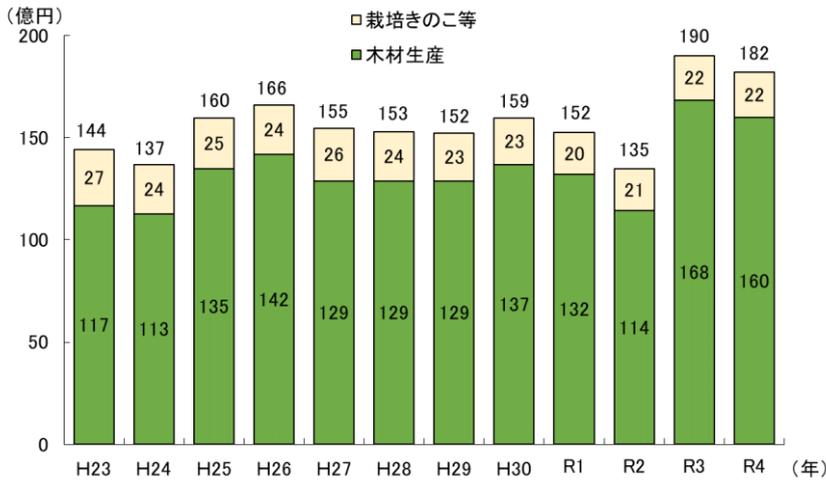


(2) 林業

① 林業産出額

- 令和4年（2022年）林業産出額は182億円で、前年（190億円）に比べて8億円減少し、全国第8位となっています。
- 内訳は、木材生産（スギ、ヒノキ、広葉樹、竹材）が160億円（構成比88%）、木材以外の栽培きのこ類生産等（きのこ類、薪炭、林野副産物）が22億円（構成比12%）となっています。

【林業産出額の推移】



【林業産出額順位 (R4)】

単位：億円

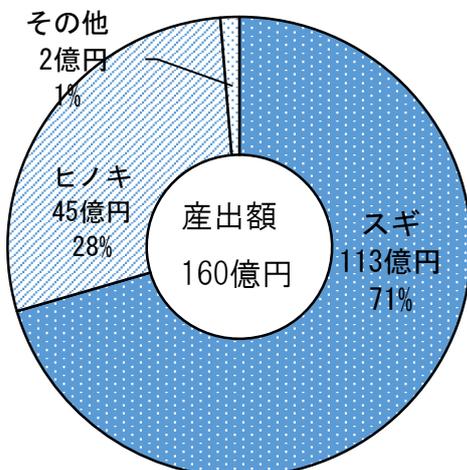
順位	都道府県	産出額	シェア
1	長野	574	11%
2	北海道	480	9%
3	新潟	441	9%
4	宮崎	336	8%
5	岩手	257	5%
6	大分	214	4%
7	秋田	209	4%
8	熊本	182	3%
9	福島	139	3%
10	福岡	136	3%
合計	全国	5,100	

(資料) 農林水産統計「令和4年 林業産出額」

② 木材部門

- 令和4年（2022年）林業産出額の木材生産部門については、160億円で全国第6位です。
- 主な内訳は、スギが113億円（構成比71%、全国シェア7%）で全国第4位、ヒノキが45億円（構成比28%、全国シェア8%）で全国第2位となっています。

【木材の生産状況 (R4)】



【木材産出額順位表 (R4)】

単位：億円

【全体】				【スギ】				【ヒノキ】			
順位	都道府県	産出額	シェア	順位	都道府県	産出額	シェア	順位	都道府県	産出額	シェア
1	北海道	384	13.1%	1	宮崎	255	15.2%	1	高知	51	9.0%
2	宮崎	283	9.7%	2	秋田	155	9.3%	2	熊本	45	8.0%
3	岩手	201	6.9%	3	大分	132	7.9%	3	岡山	43	7.7%
4	秋田	167	5.7%	4	熊本	113	6.7%	4	愛媛	40	7.0%
5	大分	160	5.5%	5	岩手	95	5.7%	5	静岡	38	6.8%
6	熊本	160	5.5%	6	青森	92	5.5%	6	岐阜	31	5.4%
7	青森	113	3.9%	7	鹿児島	76	4.6%	7	大分	27	4.8%
8	福島	102	3.5%	8	福島	70	4.2%	8	宮崎	26	4.6%
9	鹿児島	100	3.4%	9	宮城	69	4.1%	9	三重	25	4.5%
10	栃木	91	3.1%	10	栃木	61	3.7%	10	栃木	23	4.0%
合計		2,928		合計		1,675		合計		566	

(資料) 農林水産統計「令和4年 林業産出額」

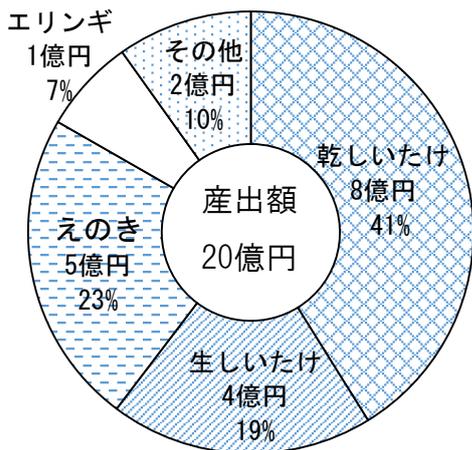
③ 栽培きのご類等部門

- 令和4年（2022年）林業産出額のうち、栽培きのご類全体については、20億円で全国第23位となっています。
- 主な内訳は、乾しいたけが8億円（構成比41%）で全国第3位、生しいたけが4億円（構成比19%）で全国第33位となっています。

【栽培きのご類等の生産状況（R4）】

【栽培きのご類等産出額順位表（R4）】

単位：億円



【全体】

順位	都道府県	産出額	シェア
1	長野	487	23.4%
2	新潟	418	20.1%
3	福岡	106	5.1%
4	北海道	79	3.8%
5	徳島	67	3.2%
6	静岡	67	3.2%
7	大分	52	2.5%
8	三重	52	2.5%
9	宮崎	50	2.4%
10	岩手	49	2.4%
：	：	：	：
23	熊本	20	1.0%
：	：	：	：
合計		2,080	

【生しいたけ】

順位	都道府県	産出額	シェア
1	徳島	67	11.5%
2	岩手	45	7.9%
3	秋田	38	6.6%
4	長野	36	6.2%
5	栃木	31	5.4%
6	北海道	31	5.3%
7	群馬	27	4.6%
8	福島	25	4.4%
9	長崎	22	3.8%
10	宮崎	21	3.7%
：	：	：	：
33	熊本	4	0.7%
：	：	：	：
合計		577	

【乾しいたけ】

順位	都道府県	産出額	シェア
1	大分	30	38.7%
2	宮崎	14	17.6%
3	熊本	8	10.8%
4	愛媛	4	4.9%
5	岩手	3	3.9%
6	静岡	3	3.3%
7	長崎	2	2.3%
7	鹿児島	2	2.3%
9	栃木	1	1.4%
10	高知	1	1.2%
：	：	：	：
合計		78	

（資料）農林水産統計「令和4年 林業産出額」

森づくりによる公益的機能の発揮に向けた取組み

○水とみどりの森づくり税

熊本県では、県民の皆様から「熊本県水とみどりの森づくり税」（年間個人500円、法人1千円～40千円）をご負担いただき、森林の持つ公益的機能の維持・増進に必要な森林整備、森林環境教育や森林ボランティア活動等への支援などを行っています。



森林ボランティア講習会での植樹体験

○森林分野のJ-クレジット創出の取組み

熊本県では、適切な森林整備によるCO2吸収量の確保を推進するため、J-クレジットの創出を支援しています。

【県支援によるプロジェクト登録者】
（R6.3末）

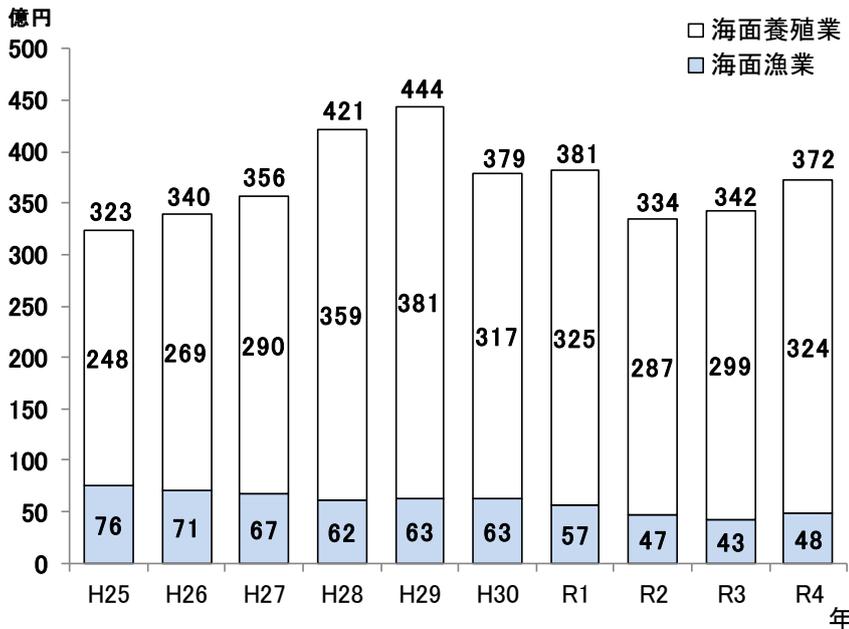
No.	支援対象者	創出予定量（t-CO2） ※8年間合計
1	小国町	14,177
2	山都町	4,756
3	五木村	32,808
4	清水産業株式会社	16,933
5	合同会社Wood One	2,701
合計創出量		71,375

※上記の他、7者のプロジェクト登録を支援中

(3) 水産業

- 令和4年（2022年）海面漁業及び海面養殖業の産出額は、372億円で前年の342億円に比べ30億円増加し、全国第13位となっています。
- その内訳として、海面漁業産出額は、48億円で前年の43億円に比べ5億円増加し、全国第33位となっています。
- 海面養殖業産出額は、324億円で、前年の299億円に比べ25億円増加し、全国第5位となっています。

【海面漁業及び海面養殖業の産出額の推移】



マダイ

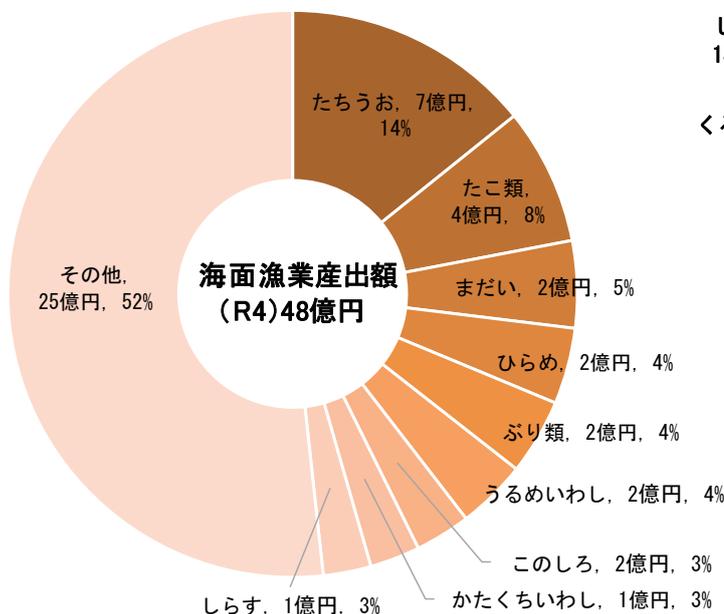


ノリ養殖

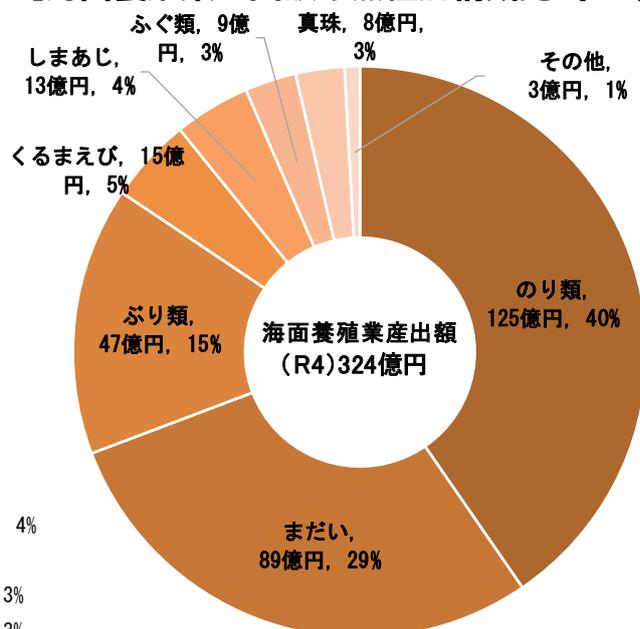
(資料) 農林水産省「農林水産統計年報」

- 令和4年（2022年）の海面漁業産出額は、48億円で、その主な内訳は、たちうお7億円（構成比14%）、たこ類4億円（構成比8%）となっています。
- 令和4年（2022年）の海面養殖業産出額は、324億円で、その主な内訳は、のり類125億円（構成比40%）、まだい89億円（構成比29%）、ぶり類47億円（構成比15%）となっています。

【海面漁業産出額の魚種別構成比（R4）】



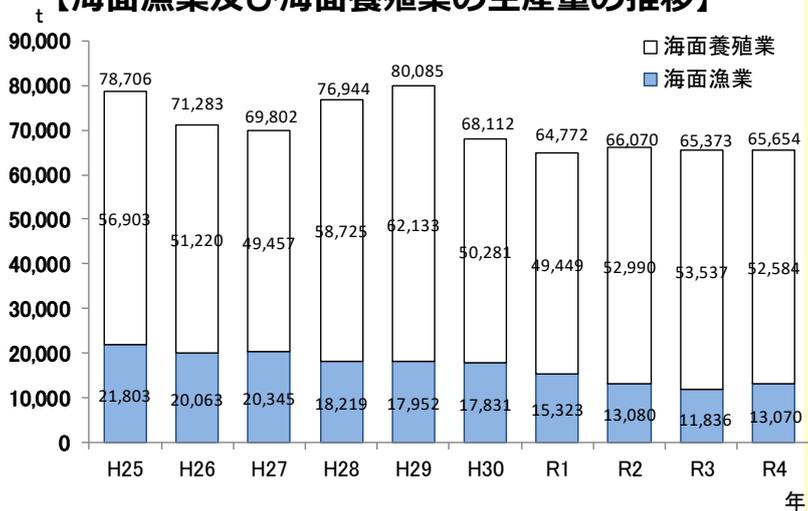
【海面養殖業産出額の魚種別構成比（R4）】



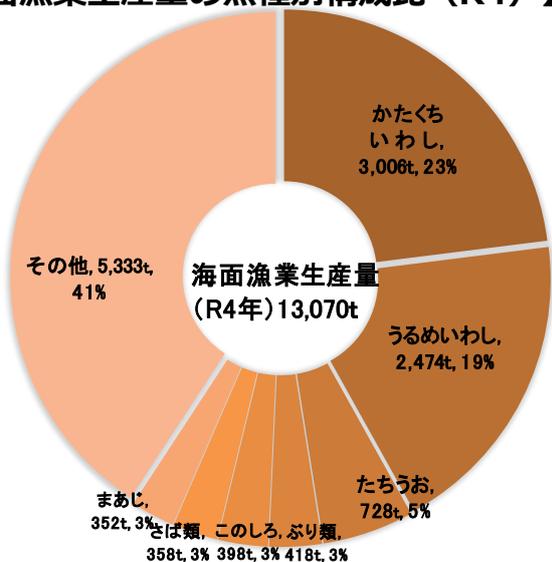
(資料) 農林水産省「農林水産統計年報」

- 令和4年（2022年）の海面漁業及び海面養殖業の生産量は65,654トンで、前年の65,373トンに比べ281トン増加（対前年比100.4%）。全国第17位となっています。
- その内訳は、海面漁業生産量は13,070トンで、前年の11,836トンに比べ1,234トン増加し、全国第31位、海面養殖業生産量は52,584トンで、前年の53,537トンに比べ953トン減少し、全国第8位です。
- 魚種別に見ると、海面漁業では、かたくちいわしが全体の23%を占めており、次にうるめいわし、たちうおの順となっています。海面養殖業では、のり類が全体の68%を占めており、まだい、ぶりの順となっています。

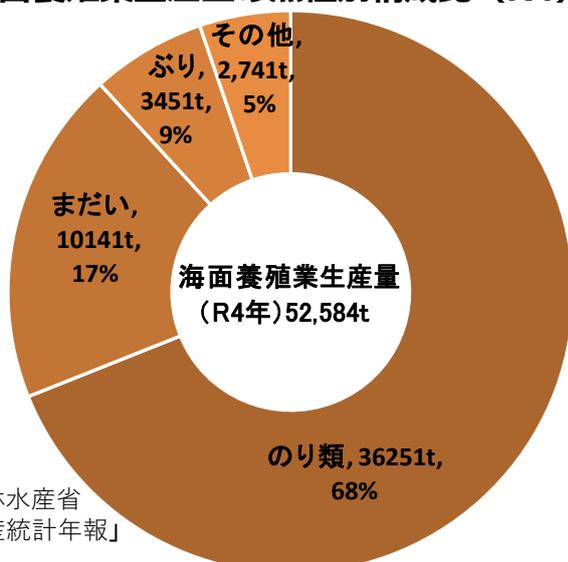
【海面漁業及び海面養殖業の生産量の推移】



【海面漁業生産量の魚種別構成比（R4）】



【海面養殖業生産量の魚種別構成比（R4）】



(資料) 農林水産省
「農林水産統計年報」

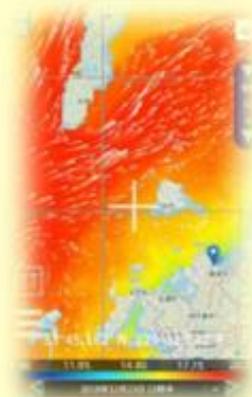
スマート水産業

熊本県では、沿岸漁業及び養殖業にICT等の先端技術を活用し、「スマート水産業」を推進しています。

沿岸漁業では、九州大学や関係機関と連携して、漁船のICT化により海洋データを収集し、漁場探索技術の開発をしました。

また、養殖業ではマダイ、シマアジを中心に自動給餌機が普及していますが、より効率的な餌やりや現場作業の軽減化のため、ICTを活用した自動給餌システム等の開発に取り組んでいます。

引き続き、国の事業等を活用しながら、「スマート水産業」の社会実装に向けた取組みを進めていきます。



漁場形成予測モデル（イメージ）



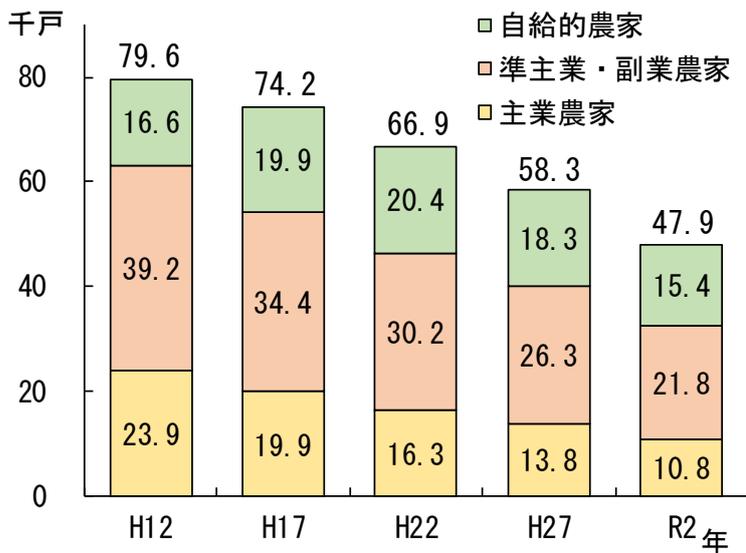
ICTを活用した自動給餌システム

4 担い手

(1) 農業

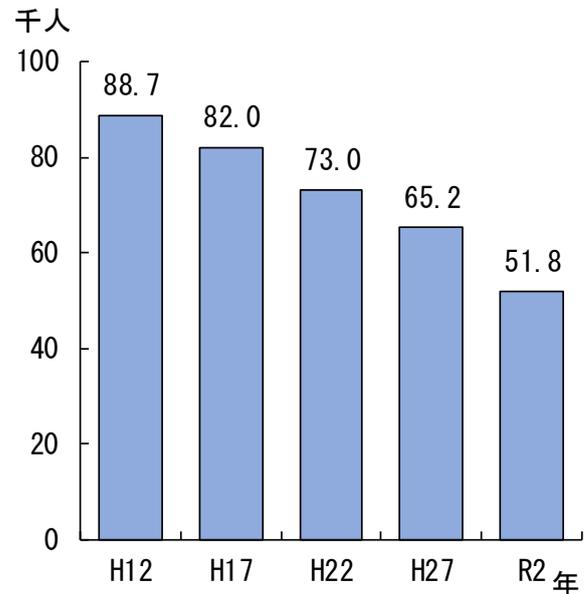
- 総農家数は全国的に減少しているなか、熊本県においても、令和2年（2020年）は平成27年（2015年）より10,535戸減少し、47,879戸となりました。
- 基幹的農業従事者（ふだん仕事として主に自営農業に従事している者）数は、後継者の減少や高齢化の進展によって減少傾向にあり、令和2年（2020年）には51,827人となっています。

【主副業別農家数の推移】



(資料) 農林水産省「農林業センサス」
「農業構造動態調査」

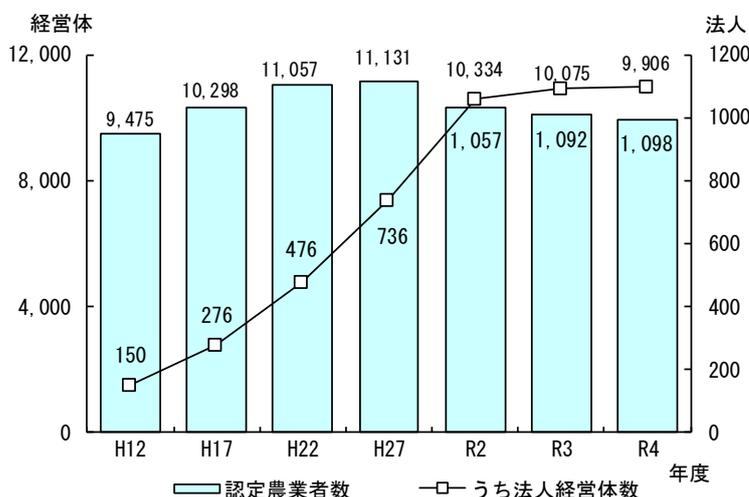
【基幹的農業従事者数の推移】



(資料) 農林水産省「農林業センサス」
「農業構造動態調査」

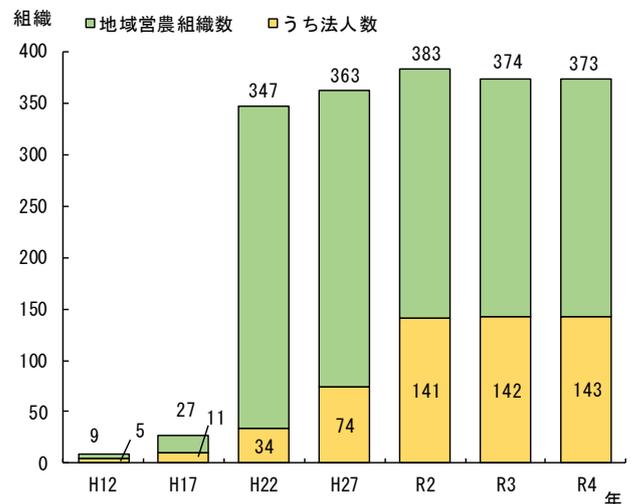
- 認定農業者数は、平成14年度（2012年度）に10,000経営体を超え、その後は、横ばい状態が続いています。なお、令和4年度末（2022年度末）は9,906経営体で、全国第3位の認定数となっています。
- 地域営農組織は373組織と前年並みとなっており、うち法人数も143法人と前年並みで推移しています。

【認定農業者数の推移】



(資料) 農林水産省「認定農業者の認定状況」

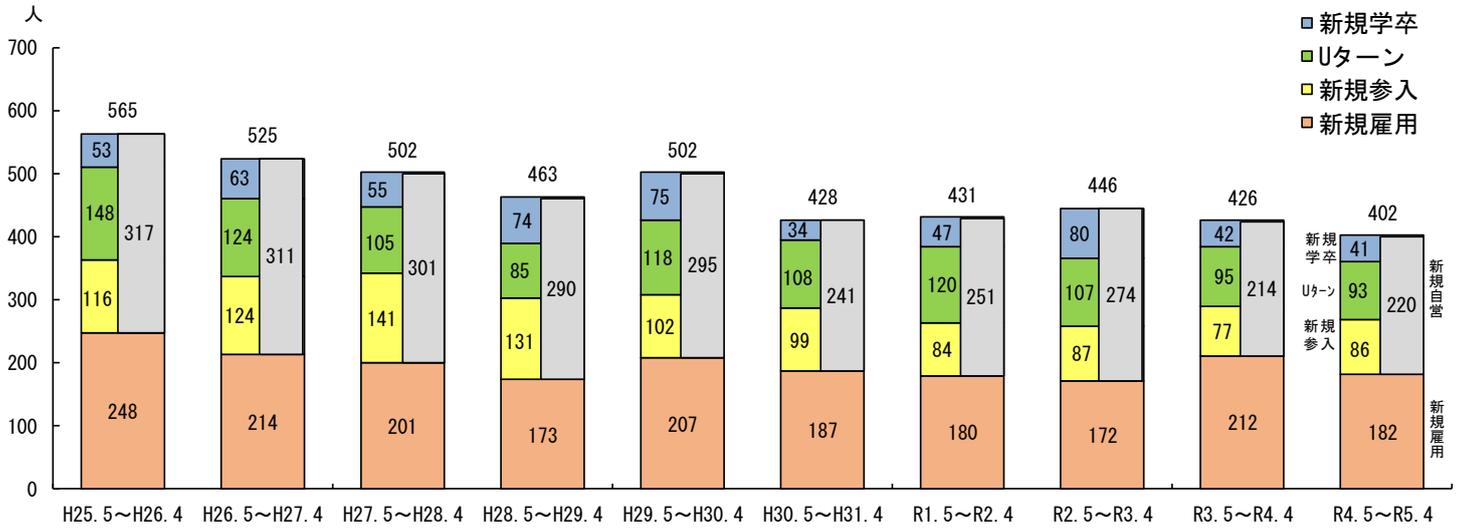
【地域営農組織数の推移】



(資料) 県農林水産部調べ

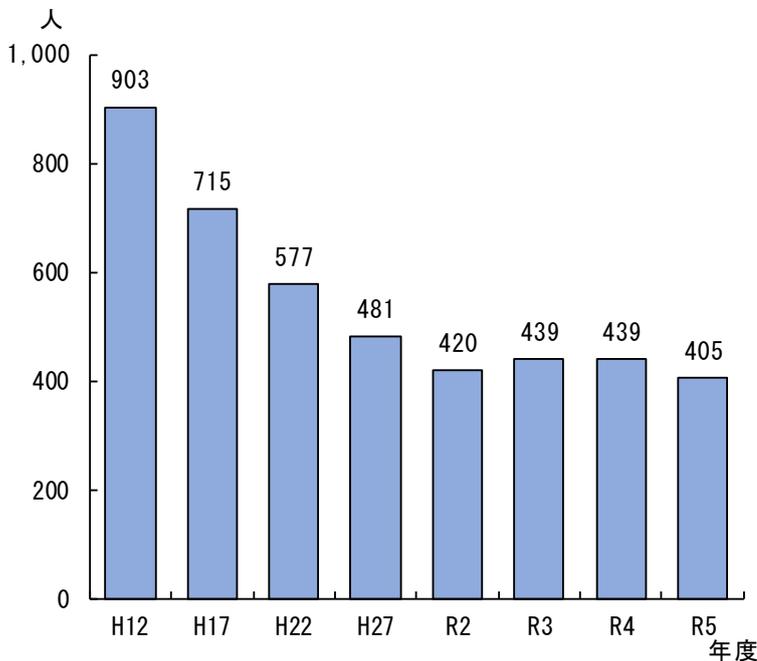
- 令和4年（2022年）5月から令和5年（2023年）4月までの新規就農者数は402人（前年比24人減）となりました。
- 令和5年度（2023年度）の青年農業者数は405人（前年比34人減）となりました。

【新規就農者数の推移】



（資料）県農林水産部、県農業会議「青年農業者・新規就農者実態補完調査」

【青年農業者数の推移】



（資料）県農林水産部、
県農業会議「青年農業者・新規就農者実態補完調査」

（注）青年農業者とは、16歳から25歳までの者で、
年間150日以上農業に従事している者。

熊本県 新規就農支援センター の取組み

熊本県では、就農前の研修制度や就農時の農地・機械・資金に関する制度など、幅広い相談に応じるワンストップ窓口として、「熊本県新規就農支援センター（熊本県農業経営・就農支援センター）」を設置しています。

就農相談員が、親元就農、新規参入、Uターンなど相談者の個別の状況に応じた支援策の情報を提供しています。

また、県内外の就農希望者からの相談に対応するため、対面に加えオンラインでの面談も実施しています。さらに、新規就農セミナー＆相談会、優良農家を視察する現地研修バスツアーなども実施しています。

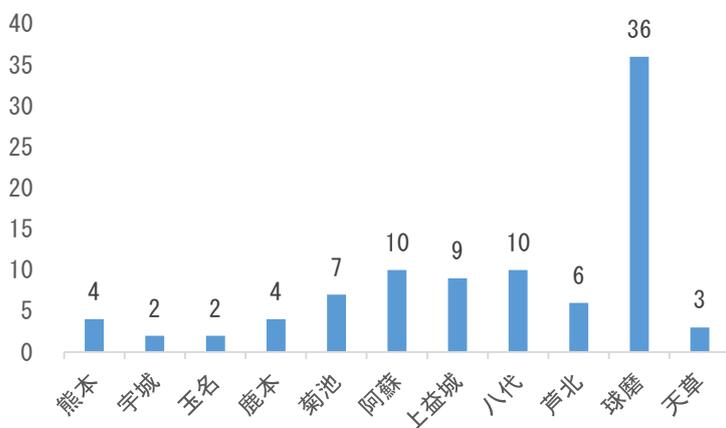


新規就農セミナー＆相談会

(2) 林業

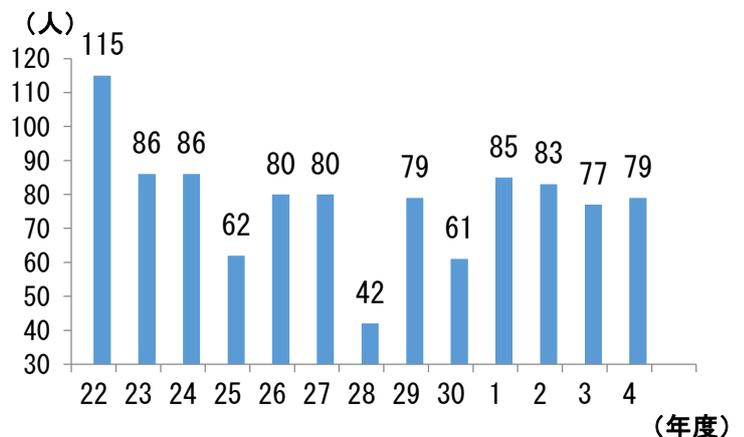
- 林業労働力の確保の促進に関する法律に基づく認定事業体は、令和5年（2023年）3月31日現在で93（前年比+2）の事業体が県知事の認定を受けています。
- 令和4年度（2022年度）の認定事業体における新規就業者数は79人となっており、近年は70～80名で推移しています。なお、平成28年度（2016年度）の新規就業者42人は、熊本地震に伴う建設業等の復興特需等により林業への新規就業者が他産業へ流れたことが推定されます。
- 地域林業の中核的担い手である森林組合は、森林の公益的機能の維持・増進を図るため、森林整備事業及び販売・加工事業等に取り組んでいます。

【認定事業体（R5.3.31）】



(資料) 県林業振興課調べ

【新規就業者数の推移】



(資料) 県林業振興課調べ

【熊本県の森林組合の状況（R4年度）】

項目	単位	本県	1県当たりの全国平均
組合数	組合	15	13
組合員数	人	35,501	31,186
1組合当たりの組合員数	人	2,367	2,415
組合員所有森林面積	ha	284,234	222,802
組合雇用労働者数	人	428	272
事業総利益	百万円	2,438	1,402
木材取扱材積	m ³	393,681	179,609
新植面積	ha	834	359
保育面積	ha	4,683	3,309

(資料) 全国：農林水産統計「令和4年度森林組合一斉調査結果」
本県：県団体支援課調べ

林業大学校

林業大学校では、林業に必要な技術と現場力を兼ね備えた即戦力となる人材の育成、そして意欲と能力のある林業経営者を養成することで、次世代をリードする林業担い手の確保・育成を図っています。

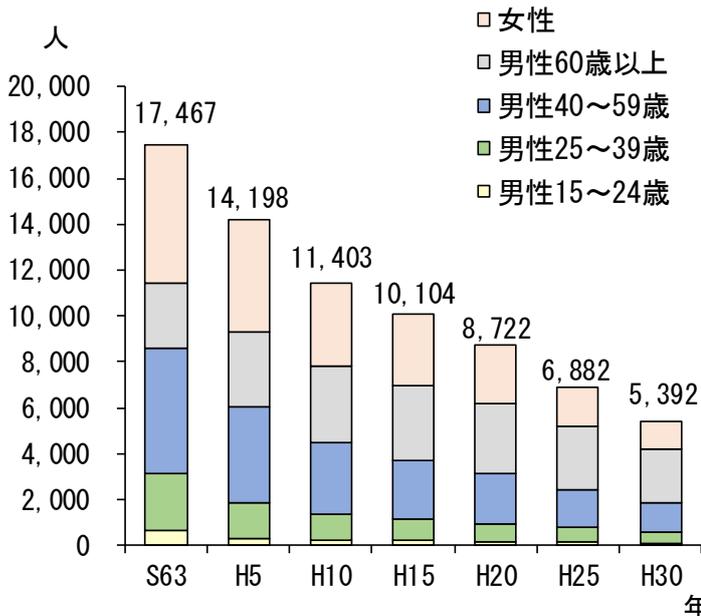


林業大学校の授業風景

(3) 水産業

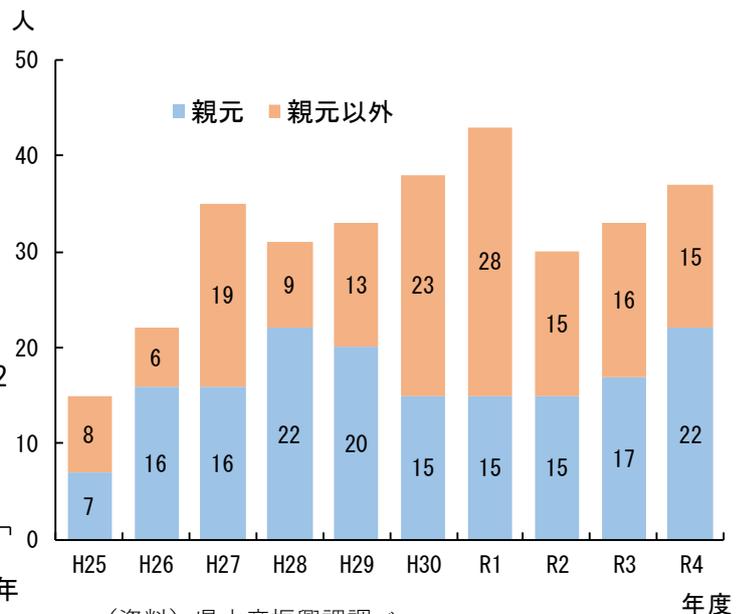
- 平成30年（2018年）の本県漁業就業者は、全国9位の5,392人で、平成5年（1993年）の38%にまで減少しています。
- 漁業就業者のうち、60歳以上の占める割合は57%と高齢化が進行しています。
- 漁業就業者に占める女性漁業者の割合は22%であり、全国平均の12%と比べると高くなっています。
- 令和4年度（2022年度）の新規漁業就業者数は、37名で増加しています。

【漁業就業者数の推移】



(資料) 農林水産省「漁業センサス」

【新規漁業就業者数の推移】



(資料) 県水産振興課調べ

漁業者の担い手育成

熊本県では、新たに漁業に就業する方が、円滑に就業・定着できるよう漁業体験・マッチング・就業定着支援・就業後の研修をワンストップで行っています。

県漁連、市町、県で組織された熊本県漁業就業支援協議会による漁業就業フェア等への出展や体験漁業などの開催を支援し、就業される方と指導者・受入漁村とのマッチングを図っています。

また、水産研究センターでは就業前の研修を実施しており、就業に必要な技術習得を支援しています。

就業時には漁船や漁具等の購入を支援するとともに、国の長期研修が活用できるようフォローアップを図っています。

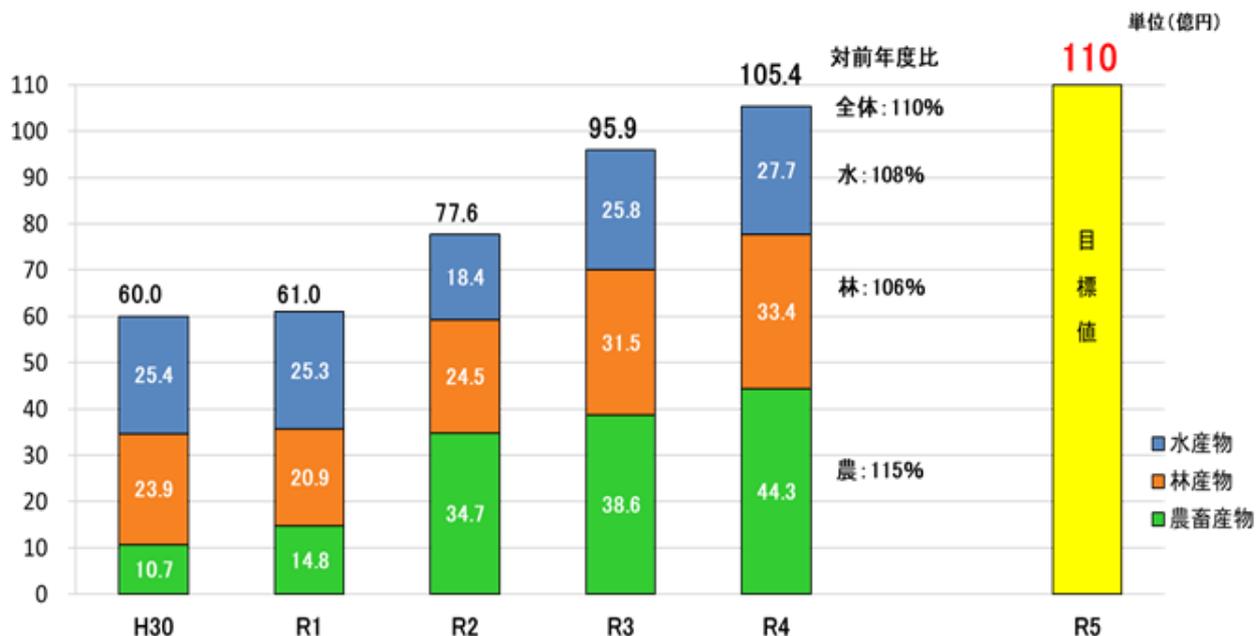


漁業就業者フェア（東京会場）

5 流通

○令和4年度（2022年度）の本県産農林水産物等の輸出額は、105.4億円（対前年度比110%）となり過去最高を更新しました。

【県産農林水産物等の輸出実績の推移】



(資料) 県観光戦略部、県農林水産部調べ

<農畜産物>

和牛人気を背景に、台湾向けを中心として牛肉の輸出が増加。また、アジアの安定した需要に支えられ台湾や香港向けのいちごが大幅に増加するとともに、海外ニーズが高い赤肉メロンを中心に輸出が拡大し、過去最高を更新しました。

<林産物>

中国の経済回復に伴う木材需要の高まりにより丸太の輸出が増加したことに加え、新たにベトナム等向け製材品の販路を開拓する等の取組みにより、輸血量・輸出額ともに過去最高を更新しました。

<水産物>

北米、アジアなどに、ブリ、マダイ、シマアジ、カンパチなどの養殖魚を中心に輸出しています。アジア向けのマダイの輸出額が大幅に増加したことから、輸出額は27.7億円と過去最高を更新しました。

「2024年問題」を踏まえた農林水産物の効率的な輸送体制の構築を進めています！

2024年4月からトラック運転手の時間外労働規制が適用され、農林水産物の分野においては、最大約32%の輸送能力不足が起こる恐れがあると試算されています。

そこで、JAグループ等と連携し、パレット輸送やモーダルシフトの推進、農産物集出荷システムの構築など、持続的・効率的な輸送体制構築を進めています。

日本の食料生産基地として、県産農産物の安定生産を維持できるよう取り組みます。



パレット輸送



モーダルシフトの推進

6 農畜産物出荷カレンダー

出荷最盛期 出荷時期

種類	品名	主な生産地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜類	すいか	熊本・鹿本・上益城・菊池												
	メロン													
	アールスメロン	鹿本・宇城・熊本・八代												
	アンデスメロン	宇城・球磨・菊池・熊本												
	クインシーメロン	宇城・八代・熊本												
	肥後グリーンメロン	八代・宇城												
	トマト	八代・玉名・宇城・熊本 阿蘇・上益城												
	いちご	玉名・八代・球磨・宇城・阿蘇												
	なす	熊本・宇城・玉名 球磨・鹿本・玉名												
	れんこん	宇城・熊本・八代												
	さといも	菊池・球磨・阿蘇・上益城												
	ピーマン	上益城・阿蘇												
	ごぼう	菊池・阿蘇												
	さやいんげん	天草・球磨・上益城												
	キャベツ	八代・熊本 阿蘇・上益城												
	にんじん	菊池・鹿本												
	だいこん	菊池 阿蘇												
	レタス	天草・八代												
	きゅうり	宇城・熊本 球磨・阿蘇・熊本・菊池・上益城												
	ほうれんそう	阿蘇												
たまねぎ	熊本・芦北・天草													
しょうが	宇城・八代													
かんしょ	菊池・上益城・阿蘇													
果実類	かんきつ類													
	温州みかん	玉名・熊本・宇城												
	不知火(デコポン)	宇城・芦北・天草												
	甘夏	芦北・宇城・天草												
	ポンカン	天草・宇城												
	清見	天草・宇城・芦北												
	河内晩柑(ジューシーオレンジ)	天草												
	ネーブル	宇城												
	大橋(パール柑)	宇城・天草												
	晩白柚	八代												
	ハウスミカン	鹿本・玉名												
	なし													
	幸水	球磨・八代・玉名・熊本												
	豊水	球磨・玉名・熊本・八代												
	新高	玉名・八代												
	くり													
	筑波・銀寄・など	鹿本・球磨・上益城・菊池・玉名												
ぶどう														
巨峰	宇城・鹿本・菊池													
桃	球磨・玉名・熊本・鹿本・宇城													
かき	宇城・上益城・菊池・鹿本													
びわ	天草													
ブルーベリー	上益城													
花き類	キク	鹿本・上益城・熊本・球磨												
	宿根カスミソウ	菊池・天草・宇城												
	トルコギキョウ	阿蘇・菊池・八代・熊本・球磨・天草												
	バラ	熊本・阿蘇・玉名												
	カーネーション	熊本・阿蘇・上益城												
	カラー	熊本・八代												
	スターチス類	天草・菊池・八代・阿蘇												
特産	畳表(いぐさ)	八代・宇城・球磨												
	茶	球磨・菊池・上益城・八代・鹿本・芦北												
畜産	牛乳・牛肉・豚肉・鶏肉・鶏卵	県下全域												

第3章 農林水産各計画の概要

熊本県食料・農業・農村基本計画～未来につながる魅力あふれる「くまもと農業」の実現～

時代の変化に対応した稼げる「くまもと農業」の確立

1 生産力・商品力・産地力の強化

- ① スマート農業の導入による省力化・生産性の向上
- ② スケールメリットを活かした大規模法人の新たな経営展開
- ③ 生産・集出荷施設の再編
- ④ 安全・安心で信頼・魅力のある商品づくり
- ⑤ 現場・消費ニーズに対応した新品種・新技術の開発・普及
- ⑥ 地域全体で取り組む畜産の収益性向上

2 担い手の確保・育成及び多様な人財の総結集

- ① 円滑な経営継承による担い手の確保
- ② 多様な就農形態に対応した新規就農者の確保・育成
- ③ 戦略的な農業経営に取り組む担い手の育成
- ④ 地域営農組織の育成
- ⑤ 企業など農業参入の促進
- ⑥ 外国人材等の確保・活躍
- ⑦ 農福連携による活躍の場の拡大

3 経営力を高める農業生産基盤の強化

- ① 担い手への農地集積の更なる加速化
- ② 生産性向上に向けた基盤・施設の整備
- ③ 農業団体の経営基盤・活動の充実強化

4 国土強靱化の推進とリスク対応力の強化

- ① 国土強靱化に向けた防災・減災対策の加速化
- ② 自然災害・価格低迷等に対応したリスク軽減対策の推進
- ③ 家畜伝染病侵入リスクを最小化する防疫体制の強化

5 県産農産物の販売力とサプライチェーンの強化

- ① 県産農産物の販売力強化
- ② 6次産業化等の推進
- ③ 地産地消、食文化の継承
- ④ 県産農産物の輸出推進



中山間地域等における魅力と活力あふれる持続可能な農村づくり

1 中山間地域の特色を活かした多様な収入の確保と担い手づくり

- ① 中山間地域における柱となる所得の確保対策と先進事例の波及
- ② 中山間地域を支える多彩な担い手の確保・育成

2 次世代に引き継ぐ生産環境の整備と

農業・農村の多面的機能の維持・発揮

- ① 中山間地域の実態に応じた基盤整備と農地集積の推進
- ② 地域活動を柱とした多面的機能の維持・発揮
- ③ 地下水と土を育む農業の推進

3 魅力ある地域資源を活用した中山間地域等の振興

- ① 地域資源を活かした農村の活性化とスーパー中山間地域の創生
- ② 交流や他分野との融合による地域活力の向上

4 鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進

- ① 地域ぐるみの総合的な鳥獣被害防止対策の推進
- ② 「くまもとジビエ」利活用の推進

熊本県森林・林業・木材産業基本計画～持続可能な森林経営と多様で豊かな森林づくりに向けて～

1 森林資源の持続的な利用による稼げる

林業の実現

- ① 集約化による効率的な森林経営の確立
- ② スマート林業技術導入などによる林業生産性の向上
- ③ 循環利用のための再造林の着実な実施
- ④ 特用林産物の生産振興

2 林業を支える“山の人財”づくり

- ① 担い手の確保・育成



3 県産木材の利活用の最大化

- ① 建築分野における木材の需要拡大
- ② 木材輸出や木質バイオマスなどにおける需要拡大
- ③ 市場のニーズに応じた木材供給体制の整備
- ④ 県民総ぐるみによる木材利用に向けた理解の醸成

4 防災・減災や地球温暖化防止等に

寄与する多様で健全な森林づくり

- ① 多面的機能の発揮に向けた適正な森林管理の推進
- ② 県民の安全・安心のための森林づくりの推進
- ③ 森林病虫獣害対策等の推進
- ④ 県民参加の森林づくりの推進
- ⑤ 森林の多面的機能を支える研究・技術開発と普及の推進

熊本県水産基本計画～くまもとの豊かな海づくりと稼げる水産業の実現に向けて～

1 水産業を支える人づくり

- ① 漁村を担う人づくり
- ② 意欲ある漁業者の経営安定対策の強化
- ③ 漁業協同組合の経営基盤強化

2 水産資源の持続的利用と水産基盤づくり

- ① 資源管理型漁業と栽培漁業の推進
- ② 水面の総合利用と漁業秩序
- ③ 漁場環境の保全
- ④ 安全・安心な漁村づくり

3 養殖業の生産性向上

- ① 海面養殖業の振興
- ② 内水面養殖業の振興
- ③ 新技術開発

4 稼げる水産業の推進と販売体制の整備

- ① 県産水産物の販売力の強化
- ② 地産地消と魚食普及の推進
- ③ 浜の活力再生プランの加速化と支援



※ 当計画は令和5年度まで。次期計画は令和6年度中に策定予定。

関連サイト

流通アグリビジネス課
「くまもとのアグリ&フード」
<https://www.kumamoto-agribiz.jp>



「くまもと地産地消公式SNS」
『KUMA RICH』



LINE



Facebook



Instagram

農業技術課
「AGRIくまもと」
<https://agri-kumamoto.jp>



むらづくり課
「くまもとふるさと応援ネット」
<https://furusato.pref.kumamoto.jp>



林業振興課
「くまもと林業大学校」
<https://www.kumamoto-forestry.ac.jp>



水産振興課 公式サイト
IG: [suisanshinkou_kumamoto](#)
FB: 熊本県水産振興課

→
イン
スタ
グラ
ム



→
フェ
イス
ブッ
ク



第4章 研究機関の取組み

1 各研究機関の概要

【農業研究センター】

- 熊本県農業研究センターは、農業技術開発の拠点として平成元年（1989年）4月に開所しました。センター内には主要作物等に対応した、7つの専門研究所と3つの地域研究所があります。
- 熊本県農業試験研究推進構想に基づき、稼げる農業を目指して、農業者の所得を最大化するとともに、環境にやさしい農業や地球温暖化にも対応できるよう、新品種の育成、新たな栽培・飼養管理技術の確立などに取り組み、技術革新の拠点・農業情報の発信基地としての役割を果たしています。



ヒートポンプ高度利用技術の開発
(アグリシステム総合研究所)



温暖化ガス排出削減等技術開発
(生産環境研究所)

農業研究センター
ホームページ Twitter



【林業研究・研修センター】

- 熊本県林業研究・研修センターでは、熊本県森林・林業・木材産業基本計画に基づき、「森林経営」「林地保全」「県産木材の需要拡大」「特用林産物の生産力強化」の4つの観点でテーマを設け、計画的かつ効果的な試験研究を行うとともに、林業技術の取得向上に必要な各種研修を行っています。
- 森林の多面的機能を最大限発揮させるため、持続可能な森林経営の確立や県民の安全安心に資する森づくりとともに、県内各地域の実情に応じた研究・技術開発とその普及を進めます。



林業研究・研修センター

熊本県ホームページ



【水産研究センター】

- 熊本県水産研究センターでは、熊本県水産基本計画に基づき、水産資源の回復と魅力ある水産業の創出を目指して、試験研究等に取り組んでいます。
- 調査研究の実施にあたっては、国、関係県はもとより大学等の研究機関と積極的に連携して研究開発の高度化・効率化をはかるとともに、各広域本部水産課の水産普及指導員、市町、漁業者等と連携しながら研究成果や水産技術の活用・普及を行っています。



漁業調査船「ひのくに」

熊本県ホームページ



2 品種の開発・選定

※「 」は品種名

米

「くまさんの輝き」



- ◆ツヤ・粘りがある極良食味品種。高温登熟性に優れ、倒伏しにくい。
- ◆R1年度 品種登録

はな にしき 「華 錦」



- ◆酒造好適米品種。倒れにくく、大粒で充実良好。吟醸酒～純米酒の製造に使用。
- ◆H28年度 品種登録

茶

「熊本TC01」



- ◆新芽が大きく、濃い。「やぶきた」より収量・荒茶品質が優れる。
- ◆R5年度 品種登録

花き

「熊本FC01」(ホワイトトーチ)



- ◆苞（花に見える部分）は純白で、茎は細く、品質が優れる湿地性カラー。疫病にも強く多収。
- ◆H24年度 品種登録

「熊本FC03」



- ◆苞が大きく緑が濃く、商品性が優れるグリーン系の湿地性カラー。収量は「ホワイトトーチ」と同程度。
- ◆品種登録出願中

いぐさ

すず かせ 「涼 風」



- ◆収量が多く、茎が中太で十分硬く、畳表の生産性が高い。枯死株が少ないのも特徴。早刈栽培向け。
- ◆H26年度 品種登録

野菜

「熊本VS03」(ゆうべに)



- ◆収量性に優れ、特に年内収量が多い。糖酸のバランスが良く、大玉で着色も優れる。
- ◆H28年度 品種登録

「ヒゴムラサキ2号」



- ◆「ヒゴムラサキ」の着色性を改善し、舌出し果の発生を軽減。
- ◆H29年度 品種登録

果樹

「熊本EC12」



- ◆12月に成熟し、高品質で食味が良く、栽培しやすい早生カンキツ。
- ◆R1年度 品種登録

畜産

きくなみいずみいーてー 「菊波泉ET」



- ◆検定成績においては枝肉重量が500kgを超え、歴代2位の育種価を持つ。加えてロース芯面積が2位とバランスが取れた褐毛和種雄牛。
- ◆R5年度 選抜

だいいちつるたま 「第一弦球」



- ◆検定成績は、バラの厚さと脂肪交雑が歴代1位を記録。父牛である弦球の成績を上回り、肉質・肉量ともに期待できる褐毛和種雄牛。
- ◆R5年度 選抜

みつふくひさ 「美津福久」



- ◆検定成績は、雌のロース芯面積、歩留基準値、脂肪交雑が歴代1位を記録。肉質に特化した黒毛和種雄牛。
- ◆R5年度 選抜

第5章 農林水産部組織図（令和6年4月1日現在）

